



KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

No.367 2021
鹿児島ワイズメンズクラブ

7
月号

国際会長 : Kim Sang-chaе [韓国] 世界とともにワイズメン Y's Men with the World
アジア会長 : 大野 勉 [神戸ポート] 100年を越えて変革しよう Make a difference beyond the 100th
西日本区理事 : 新山 兼司 [京都トップス] Challenges for the future 未来への挑戦
九州部部长 : 森 律子 [八代] 小さなことにも大きな愛を込めて。そして未来へ
 With great love for the little things And towards the future...



SDG's を鹿児島で!

It's time to think about SDG's in Kagoshima.

鹿児島クラブ会長 中堀 清哲

2021-2022年度 第1回評議会の報告

去る7月4日(13:00-16:30)に、九州部2021-2022年度第1回評議会がオンライン形式で行われました。今期は八代クラブ森律子ワイズが九州部部长を務められます。そのキックオフとも言える評議会で、オンラインとはいえ多くの方々に参加され、いろいろな意見や要望が出され、有意義な会だったと思います。

今後の九州部の活動に向けて、いくつかの提案がありましたが、筆者個人としては「九州部公式ホームページ制作と保守の外部委託」の議案に関心がありました。これまでは、ホームページをワイズメン個人のスキルと負担に頼っていましたが、今後は専門の制作会社に委託していく、という提案です。

外部に委託することで、(1)迅速に九州部の情報が更新できる、(2)各クラブからのお知らせ等が管理者を通さずにタイムリーに発信できる、(3)評議会・部報等の内容を蓄積・閲覧できる、などの利点があり、筆者はこの案に賛成しています。

ただ、これについては早急な実現に慎重な意見も少なくありません。たとえば、「各クラブからの情報発信が容易にはできないクラブもある。」とか、「本当に各会員がホームページを見るのか、見るようにもっていくにはどうすればよいのか、そこの手立てが必要である。」などです。この議案は継続審議となりましたが、ほかの様々な意見も含めて、今後各クラブ内でよく検討し、改めて評議会で意見を集約し、可否を決めてほしいと思います。

評議会では、このほか前年度の活動報告、会計報告、今年度の活動方針、予算などが審議されました。前年度は鹿児島クラブが九州部を担いましたが、その活動・会計報告については承認され、松永部長、坂口会計担当、園屋書記・事務局長の三役は、その務めをこの第1回評議会で滞りなく終えることができました。日ごろからご支援・ご理解いただきました鹿児島クラブの皆様、そして九州内ワイズメンズクラブの皆様に心より御礼申し上げます。

鹿児島クラブ 園屋 高志



会長通信

鹿児島クラブ会長 中堀 清哲

SDG's を鹿児島で!

It's time to think about SDG's in Kagoshima.



2021-22年度期鹿児島ワイズメンズクラブの会長を仰せつかりました。今回で3度目の会長となります。過去に次期会長研修会を経ての会長就任でしたが、今期は新型コロナウイルスの蔓延により、研修会は中止となりました。私どもの日常を奪い去ったこの小さな小さなCOVID19ウイルスがパンデミックを引き起こしてから既に一年以上が過ぎ去りました。ウイルスはしたたかで、突然変異を繰り返しながら、我々人類をあざ笑っているかのようです。約100年前にもスペイン風邪が世界中で流行り、パンデミックを引き起こして、約1千200万~5千万人もの人々が亡くなったとされています。この時は日本では終息するまでに1918年から1920年まで約2年を要しました。ウイルスが突然変異を繰り返し、第3波まで起こり、約45万人が亡くなりました。その当時の新聞記事を読むと、書かれてある内容は現在の新聞や報道と似通っていることに驚きました。科学技術は進歩しても、本質的に人間は変わらぬものであると云う一面を見たようです。スペイン風邪によるパンデミックが収まった直後、1922年米国のオハイオ州で Paul William Alexanders 氏によってワイズメンズクラブが設立されました。ワイズメンズクラブは100周年を迎えるのです。明治維新から日本は欧米諸国に追いつけ、追い越せとひたすらに走り続けてきましたが、追いついたはずの欧米資本主義は多くの矛盾を抱えており、人類の生存自体を脅かすまでになりました。そのような危機感から国連は持続可能な開発目標 (SDGs) を2015年に掲げました。本質的に何も変わらない私たちは、今一度100年前に掲げられた崇高なワイズメンズクラブの綱領と目的を反芻し、パンデミックを乗り越えて、アフターコロナの復興と理想社会を建設すべくwisダムを世の中に広めるべきであると思います。SDGsを達成する事はワイズメンズクラブの綱領と目的を達成する事と共通点が多いのです。この二つの目標を達成するために鹿児島で一歩ずつ、出来ることから始めようではありませんか。約150年前鹿児島から日本の近代化が始まったように、新しい何かを鹿児島から始めましょう。



理事通信

西日本区理事 新山 兼司

Challenges for the future
未来への挑戦



2021-2022年度は、ワイズメンズクラブ創立100周年、西日本区25周年の年度になります。西日本区全域にワイズの活力を取り戻し、活気溢れる西日本区にしなければなりません。

又、人生100年の時代が訪れようとしています。私たちは人生設計や働き方をどのように変え、どのような準備をしておけばいいのでしょうか?年齢により変わる時々の状況に応じて、新しい事を学び、新しいスキルを身に付けていく必要があると思います。どんなに素晴らしい能力や発想を持っていても、健康が伴わなければ、それを何かに役立てる事は出来ません。

深い友好関係も又、健康を保つのに必須と言われています。誰もが特定のスキルだけで、人生を最後まで生き抜く事は出来ません。ある時点で自分を変えなければならないのです。自分を変える為には、自らを知り、世界を知り、難しい決断もしなければなりません。多彩なコネクションも必要です。自分と同じような仲間と付き合いだけでは、変革は起きません。自分のネットワークの中に異なるタイプの人たちがいるという事は、別の自分、別の人生の在り方を考える良いきっかけになります。ワイズメンズクラブ創立100周年に向かって、メンバー一人ひとりが自らを知り、自分を変える事により、クラブの発展を生み出します。

魅力あるクラブには、必ず人が集まります。クラブの活性化のためには、

- ①強いリーダーシップ
- ②例会プログラムの強化
- ③地域社会との結びつきを、奉仕活動を通じて強化
- ④広報活動の強化
- ⑤クラブ研修会の実施
- ⑥会員増強計画

など、現状を打破りワイズメンとしての誇りを持ち、自らの成長と共にクラブの発展に繋げていただきたいと思います。2022年には、西日本区会員2022名を目標に掲げ、未来への挑戦を皆様と共に切磋琢磨し、西日本区全域に良い風を吹かせたいと思います。共に邁進しましょう!

07 企画例会報告 Planning meeting report

日時：令和3年7月13日 火曜日
19:00～20:00
場所：Zoom
出席者：神村、中堀、園屋、徳田、
松若、松永

06 定例会報告 Planning meeting report

日時：令和3年6月22日 火曜日
場所：鹿児島国際交流センター
出席者：12名
司会者：中堀

6月例会の記録

クラブ在籍者	13名
出席者	12名
メネット	0名
ゲスト	0名
ビジター	0名
メイクアップ	0名
6月出席率	92.3%



今月の樹

ハイビスカス

ハイビスカスは「アオイ科フヨウ属」を指す学名で、一般にハイビスカスと呼ばれているこの花は「ブソウゲ（仏桑花）」というのが正しいようである。

中国南部原産で、長く突き出た雌しべが特徴である。赤、黄、橙など色とりどりの園芸品種があり、花の少ない7～10月の期間、庭に彩りを添える。アフリカ原産のフウリンブソウゲは花びらが細かく裂けている。

学名は *Hibiscus rosa-sinensis* で、アオイ科フヨウ属である。

今月の聖句

何事も利己心や虚栄心からするのではなく、
へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、
めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。
互いにこのことを心がけなさい。
それはキリスト・イエスにもみられるものです。

フィリピの信徒への手紙 2章3～5節



鹿児島YMCA報告

2021年6月19日に第10回日本YMCA同盟協議会がオンラインで開催されました。鹿児島YMCAからは麦野代表理事、埜総主事が議決権を持つ代議員として、徳田常議員会議長、中松評議員会会長、新内職員の3名が陪席参加いたしました。

その協議会において、田口同盟総主事より中期計画として日本YMCA事業方針計画が発表され、YMCAの進むべき方向性が示されました。今後、この方針に沿ってYMCA運動を進めていく予定になります。

歴史的な世界同時パンデミックの中でレジエンス（持続性、柔軟性、リカバリー 再建、リイマジネーション（創造））を目指した日本YMCA期計画という灯を掲げた事業方針・計画となっています。

2021年度 日本YMCA事業方針・計画

「光は暗闇の中で輝いている」(ヨハネによる福音書1章5節)

鹿児島YMCA 新内 博之

1. Positive well-being

Positive well-beingを提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。



2. Youth Empowerment

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。



3. Technology for social inclusion & diversity

インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場面でテクノロジーを活用し、多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。



4. Partnership

地域社会の課題に対し、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時にかなったスピード感をもって解決に臨む。



5. Change Agent

未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人一人がポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨み、Change Agent (Global Servant) の育成に注力する。

